

## ニューヨーク市警高官の日本訪問

ニューヨーク事務所

ニューヨーク事務所の独自事業（日米警察機構連携強化推進事業）として、本年 1 月 30 日から 2 月 5 日までの間、ニューヨーク市警（以下、「NYPD」）の No.2 であるラファイエル・ピネイロ第一副長官（First Deputy Commissioner：以下、「ピネイロ副長官」）の日本招請に随行しました。本稿では、その概要について報告します。



池田警視總監を表敬

### 1. 招請の目的

ピネイロ副長官は、前任の NYPD 人事部長時代より、当事務所からの活動支援や警視庁からの研修生受入\*等に際して数多くの便宜を図っており、同副長官を日本に招請し、我が国の警察制度や社会制度、文化の実情理解の機会を広く提供することにより、当事務所及び警視庁と NYPD のさらなる関係強化を図ることを目的としました。

※ 警視庁では、80 年代後半から研修のため NYPD へ若手警察官を派遣している。

### 2. 主な日程の概要

#### (1) 警視庁視察

池田警視總監への表敬訪問を皮切りに、音楽隊による歓迎演奏や目黒警察署を視察（視察状況は 2 月 1 日付毎日新聞朝刊掲載）したほか、警察学校や警察犬訓練所など関連施設を訪問し、警視庁幹部との建設的な意見交換を行いました。



歴代 NY 赴任者らと

ピネイロ副長官は NYPD 警察学校設立プロジェクト（13 年に開校予定）を統括しており、特に警察学校の設備や術科を通じて「道」を重んじる教養に強い関心を示しました。

また、歴代ニューヨーク赴任者が集い、ピネイロ副長官とピスティリ秘書官（NYPD の窓口担当者）を囲み、近況報告や思い出話に花を咲かせました。懇親会には、初代 NYPD 研修生や 33 年前に NYPD を訪問したという職員も参加し、国や世代を超えた警察組織の一員としての絆の強さを感じました。

## (2) 木村クリア理事長表敬訪問

ピネイロ副長官からは、今次招請に対する謝意、長期的な交流の重要性や、実際に見聞することが日本の実情理解には極めて有効かつ重要であるとの意見が伝えられました。表敬後、上田専務理事や池田事務局長、佐々木前 NY 所長らを変え、日米の社会制度や文化等に関する意見交換が行われました。



木村理事長を表敬

## (3) 都内視察

皇居や浅草、新宿歌舞伎町等を視察。歌舞伎町が一部ニュー Yorker に「東京の Times Square」と呼ばれていることを初めて知りました。また、地下鉄に乗車した際は「なぜ乗車時に客は整列しているのか?」、散策時には「なぜ道路にごみが落ちていないのか?」などの質問を多数受け、視点の違いを興味深く感じました。

## (4) 京都視察

銀閣寺、清水寺、八坂神社等の仏閣を訪問。公共バスで移動した際は、すし詰め状態(ちょうど学生の帰宅時間帯)のバスに「なぜ運転手はこれ以上客を乗せようとするのか」と半ば本気で憤っていました。低学年の女兒がひとりでバス通学している姿を見て「危なくないのか?」と驚愕。



畳を初体験

また、日本の旅館を体験。畳や布団、風呂(湯船)といった様式の違いに戸惑いつつも、「慣れれば案外快適かも」とご満悦の様子でした。

## 3. 所感

これまで NYPD による NY 事務所業務に対する便宜は、(歴代 NY 派遣者が培った信頼関係に基づく)厚意に負うところが大きいのが現状で、NYPD との関係は、どちらかといえば「TAKE」に偏向したものでした。

日本訪問中、多少のハプニング(過密日程と時差による疲労からピネイロ副長官が体調を崩しそうになり日程をキャンセルなど)はあったものの、強い影響力を有する NYPD 高官が実際に日本を見聞したことの意義は大きいと思います。

今次訪日が、次世代がより仕事をしやすい環境作りの一助に、日本への実情理解が NYPD 側の 10 万人とも言われるニューヨークの在留邦人へのサポートの一助になれば、これに勝る喜びはありません。

最後に、この場をお借りして、今次日本招請に関してご支援・ご協力をいただいた全ての関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。また、ピネイロ副長官からは最後に「Thanks for a once in a lifetime experience」との言葉をいただいたことを申し添えます。

(中嶋所長補佐 警視庁派遣)